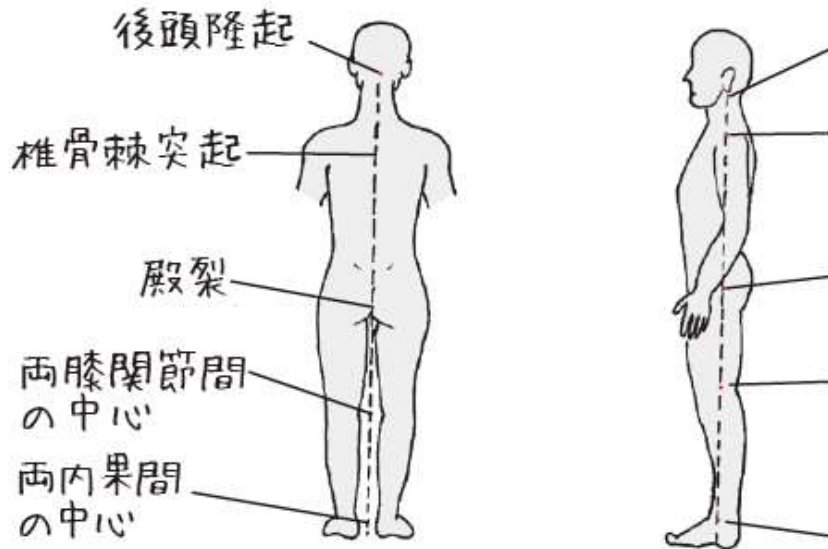


重心の位置

- 重心の高さは、足底から男性が（ ）%、女性が（ ）%である。
- 重心の位置は、（ ）にある。
- 小児は頭が相対的に大きいため、重く、重心の位置が（ ）。



立位姿勢の安定性

- 重心の高さが（ ）ほど安定性がよい。
- 支持基底面が（ ）ほど安定性がよい。
- 支持基底面内の重心線の位置が、支持基底の（ ）安定性がよい。
- 質量が（ ）ほど安定性がよい。
- 摩擦抵抗が（ ）ほど安定性がよい。
- 閉眼では安定性が（ ）。
- 重心動揺は、左右方向より前後方向で（ ）。
- 老人では重心動揺が（ ）、安定性が悪い。
- 下肢の（ ）の低下や、（ ）機能の障害があると安定性が悪くなる。

立位時の筋活動

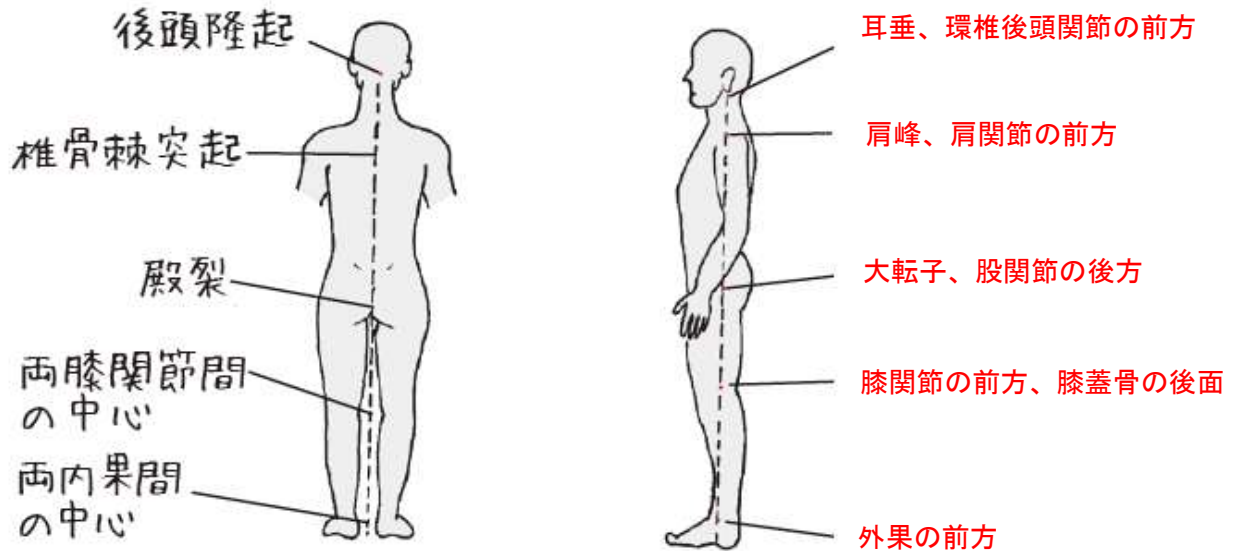
- 抗重力筋の脊柱起立筋やヒラメ筋、腓腹筋は（ ）に働く。
- 大腿二頭筋や大腿四頭筋は、（ ）に働く。

筋と姿勢

- 腹筋の低下があると、腰椎の（ ）、骨盤の（ ）がみられる。
- 脊柱起立筋の低下があると、脊柱の（ ）となる。
- 大殿筋の筋力低下があると、立位で股関節が（ ）する。
- 腸腰筋の短縮があると、骨盤が（ ）する。
- 中殿筋の筋力低下があると、（ ）への安定性が悪くなる。
- 大腿四頭筋の筋力低下があると、（ ）となる。

重心の位置

- 重心の高さは、足底から男性が（ 56 ）%、女性が（ 55 ）%である。
- 重心の位置は、（ 第2仙骨の前縁 ）にある。
- 小児は頭が相対的に大きいため、重く、重心の位置が（ 高い ）。



立位姿勢の安定性

- 重心の高さが（ 低い ）ほど安定性がよい。
- 支持基底面が（ 広い ）ほど安定性がよい。
- 支持基底面内の重心線の位置が、支持基底の（ 中心に近いほど ）安定性がよい。
- 質量が（ 大きい ）ほど安定性がよい。
- 摩擦抵抗が（ 大きい ）ほど安定性がよい。
- 閉眼では安定性が（ 悪くなる ）。
- 重心動揺は、左右方向より前後方向で（ 大きい ）。
- 老人では重心動揺が（ 大きく ）、安定性が悪い。
- 下肢の（ 深部感覚 ）の低下や、（ 迷路 ）機能の障害があると安定性が悪くなる。

立位時の筋活動

- 抗重力筋の脊柱起立筋やヒラメ筋、腓腹筋は（ 持続的 ）に働く。
- 大腿二頭筋や大腿四頭筋は、（ 非持続的 ）に働く。

筋と姿勢

- 腹筋の低下があると、腰椎の（ 前弯 ）、骨盤の（ 前傾 ）がみられる。
- 脊柱起立筋の低下があると、脊柱の（ 後弯（円背） ）となる。
- 大殿筋の筋力低下があると、立位で股関節が（ 過伸展 ）する。
- 腸腰筋の短縮があると、骨盤が（ 前傾 ）する。
- 中殿筋の筋力低下があると、（ 側方 ）への安定性が悪くなる。
- 大腿四頭筋の筋力低下があると、（ 反張膝 ）となる。